

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書



## 1. 学校概要

学 校 名	山ノ内町立山ノ内中学校
種 別	中学校
所 在 地	〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏 3400-1
E - m a i l	yamachu@valley.ne.jp
W e b s i t e	<a href="http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/kyoiku/yamachu.html">http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/kyoiku/yamachu.html</a>
生 徒 数	男子 158 名 女子 122 名 合計 280 名
生徒の年齢	12 歳～15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

本校の ESD は総合的な学習の時間を中核とし、学校行事や各教科と連携した 3 年間を通じた系統的な学習を仕組んでいる。

- 1 年次は我が町の良さや価値探しと友との共有活動を通じて、情報を集め取捨選択し課題を見出す力の育成を目指しています。
- 2 年次は、草津町の魅力に学び、我が町の良さや価値を再発見する活動を通じて、他と比較し、課題解決の方法を考える力の育成を目指しています。
- 3 年次は、1 年次からの学習と修学旅行（京都の魅力調査や観光大使活動）で学んだ事をもとに、町関係者を招いて中学生が夢みる町づくり討論会を行い、情報をまとめ、発信し、行動する力の育成を目指しています。

本年度行った主な活動

- 京都の魅力調査・山ノ内町観光大使活動(3 学年)
- 志賀高原トレッキング(1 学年)
- 草津町研修旅行(2 学年)
- 中学生が夢みる町づくり討論会(3 学年)
- ユネスコスクール交流(3 学年)
- A B M O R I(生徒会)
- ESD 講演会(全校生徒)
- 文化祭での ESD 発表
- 地域自慢の旅(1 学年)
- 夢みる町づくり実現プロジェクト(3 学年)
- 町ユネスコエコパークセミナーへの参加と発表(1 学年)
- 信州 ESD コンソーシアムへの参加と発表(1 学年)



山ノ内町観光大使



志賀高原トレッキング



中学生が夢みる町づくり討論会



草津研修旅行

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野

- 5. 気候変動
- 7. 地域の伝統文化、文化遺産
- 8. 人権・平和
- 13. エコパーク

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力

- 1. 批判的に考える力
- 2. 未来像を予測して計画を立てる力
- 3. 多面的、総合的に考える力
- 4. コミュニケーションを行う力
- 5. 他者と協力する態度
- 6. つながりを尊重する態度
- 7. 進んで参加する態度

#### ウ. 活動時間

- 2. 総合的な学習の時間
- 3. 特別活動等

#### エ. 使用した教材

NHK 番組放送「2030年の東京」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

#### 総合的な学習の時間の授業づくり

・生徒が主体的に自分の願いや希望に応じた課題を持ち、ワクワクドキドキした活動ができるように、クラスの壁を取り払い、課題別にグループを作り共同的な学習

ができるようにした。

・従来教師が計画し実施してきた宿泊学習を、日程の大半を生徒に計画させ、生徒の発想を大事にした研修とした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

3年間を通じたESDカリキュラムをつくり、各学年の中核活動を行事とリンクさせて位置づけた。授業づくりや授業展開においては、生徒の実態に応じた学習を仕組み、アクティブラーニング型の授業を行っている。学年単位で学年職員が指導に当たることで、組織的にアイデアを出し合っただけで授業づくりができた、生徒の学びの良さを共有できたりすることで、職員間の学びも生まれてきている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

ESD研修として「江戸区立八名川小学校長 手島 利夫先生」から、本校が取り組んできたESDの取り組みと、これから目指す方向についてご指導をいただき、取り組んできた事への自信と今後の希望を持つことができた。

ESD研修として「目白大学 石田好広教授」から教科学習におけるESDについて、ESDカレンダーづくりを通して、ESDを中核に置いた学校づくり・授業づくりの方向性が見えてきた。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

「信州ESDコンソーシアム」での活動内容の発表、「ESD大賞」に応募し本校の活動を発信、中野・下高井教育会の広報へ「特色ある教育活動」として、ESDの活動を発信、長野県教育委員会HPへ「特色ある教育活動」として、ESDの取り組みを掲載した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成。

山ノ内町ユネスコエコパーク推進室、山ノ内町商工観光課、志賀高原観光協会、信州ESDコンソーシアムと連携しながら、修学旅行での「観光大使活動」町関係者との「中学生が夢見る町づくり討論会」、ユネスコエコパークでのトレッキングで「環境学習」を実施したり、学習の成果を「町ユネスコエコパークセミナー」「信州ESDコンソーシアム」で発表した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成。

信州大学教育学部附属松本中学校との交流を行った。松本中学校1年生が山ノ内町にキャンプ学習で訪れた事を機会に、本校3年生から山ノ内中学校のESD学習の様子を、グループ毎に取材するという形での交流を実施した。また高山中学校の「子ども議会」に2年生の代表生徒3名が、傍聴し高山中の生徒の活動の一端や、村議会への提案を聞いた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容。

「町に誇りを持つ」という点について、1年次には「自分たちにとって興味関心がある目立つ事」に価値があると考え、我が町の自慢ととらえていた生徒たちが、2年次では、「当たり前のように身近にある」ありふれた自然の恵みや風景に魅力を

とらえ直してきました。また、「町に愛着を持つ」という点についても、自ら主体的に調べたことによって、「山ノ内町だって、魅力では負けてないぞ！」等、「我が町の現状」に対して、次第にプラスなとらえ方をする生徒が増えてきた。

### (3) 平成 30 年度の活動計画

各学年の中核活動と総合的な学習・教科学習・生徒会をリンクさせる。また各学習におけるキーワードを掲げ、各担当者を中心に生徒が主体的に学習に取り組める授業・活動をつくりあげる。

#### 中核活動

- 1 学年：「地域自慢の発見（山ノ内町の魅力）」
- 2 学年：「地域自慢の再発見（草津町との比較）」
- 3 学年：「地域自慢の活用（夢見る町づくり）」

#### ○総合的な学習の時間

- 「人とつなぐ」：地域の人から学び、生き方にふれる
- 「人づくり」：環境・人権・地域にキャリアの視点を加える。
- 「物づくり」：地域材を使った愛着の持てるモノ

#### ○生徒会

- 「アイデア」：委員が主体的にアイデアを出し合って活動できる委員会にする

#### ○教科授業

- 「アクティブラーニング」：教師指導型の授業からの脱却